

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人

小羊学園

〒433-8105

静岡県浜松市北区三方原町 2709-12

電話：053-414-1833 FAX：053-438-7707

E-mail kohitsuji@imix.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松 義人

印刷所：S R S株式会社

定 価：一部 30 円

2012年4月20日

第 348 号

人権感覚をどう養うか

理事長 稲松 義人

昨年、障害者虐待防止法が成立した。児童虐待防止法、高齢者虐待防止法が先に施行されており、障害者についてだけなぜ法制化されないのかと訴えていた方たちもいたが、私はこの種の法律が話題になるたびに、当たり前のことを法律にせざるを得ない現代社会の現状こそ悲しむべきことではないだろうかと感じてきた。虐待は何としても防止したいというのは当然のことだが、法律の示す基準にそって対応することで新たな課題が見えてくる。

児童虐待防止法ができた頃、ある母親から「わが子を叱るにも周りを気にしなければならなくなった」と戸惑いを感じていることを聞かされた。例えば、自分の子どもの頃を思い出すと、親に叱られて玄関の外に出されて泣いたという思い出のある人は少なくはないのではなからうか。しかし、今や玄関先で「お母さんご免なさい」と激しく泣いている子どもを見た人が、虐待を疑って通報するとも限らない。マニュアルでは「疑わしいときには通報を」ということなので、十分起こり得ることである。

通報を受けた児童相談所は、その家

庭に向き、「これこれの通報がありましたか」と問うのだろうか。しかし、多くの養育者は「はい虐待していました」とは言わないだろう。実際には虐待していたとしても、問われた養育者は「しついです」と応答するのではないだろうか。死に至るような折檻をした養育者でも、「しつかったです」と言ったという報道をこれまで何度耳にしたことか。

仮に養育者が「ついカッとなって子どもを叩いてしまいました。気持ちにゆとりがなくて適切に子どもに向き合うことができませぬ。」と告白したとしたら、児童相談所のワーカーは親身になって相談に乗ってくれるのだろうか。「誰でも同じですよ。今後は気をつけてくださいね。」という対応で済まされてしまうとしたら、苦悩する養育者たちは、自己嫌悪と孤立感をますます深めるのではないだろうか。

虐待への対応に奔走する児童相談所のワーカーの話を知ると、「実際には、明らかに虐待が確認されるケースにしか対応できない。本人たちにとって不本意であろうが、不適切な親子関係であれば子と養育者を行政の権限によって引き離さざるを得ない。当事者との信頼関係の構築を無視するような強硬な介入をしておいて、その後、健全な親子関係の再構築のための働きかけ(ケースワーク)などできるわけはない。」と嘆いておられた。

支援を必要とする人たちに寄り添うべき立場の人(養育者やワーカーなど)が、しっかりと相手に寄り添えないところから人権軽視がはじまり、そのことを気づかない社会では、やがて人権侵害へ発展し、自分自身の弱さや不安に目を背け、それをより弱い人につけるとき、虐待のような悲惨な結果に結びついてしまうのではないかと思う。決してゆとりがあるわけでもなく、ギリギリのところ子どもや高齢者や障がいのある人たちに向き合っている家族や福祉の現場にいるワーカーたちにとっては、相手の立場に立って寄り添うことは、頭では分っていたとしても実際にはかなり難しいことではないだろうか。ましてやコミュニケーションにハンディのある人たちのことを理解するのはなおさらのことである。

私たちは、そんな困難な現実の中にいることを自覚して、いつも自分自身を見つめ直したい。自分の相手に対する態度を振り返り、もし自分が相手の立場にいたらどう感じるだろうかと繰り返し問い続けたい。それが自然にできるようになったとき、知らず知らずのうちに他者への思いやりの感性が磨かれていくのではないかと思う。聖隷の人たちが大切にしている「自分を愛するようにあなたの隣人を愛しなさい」という聖書の言葉も、人権を尊重する実践のための戒めではないだろうかを思っている。

小羊学園に新しい風が吹きます！

新年度に入り、今年も新職員が小羊学園に仲間入りしました。今回は、採用事業所から1名の方に、自己紹介をしてもらいました。新しい風を巻き起こしてくれるであろうニューフェイスをよろしく!!

紹介項目

- ① 配属事業所
- ② 配属職種
- ③ 卒業学校
- ④ 趣味・特技・誰にも負けな
いこと
- ⑤ 長所・短所
- ⑥ この仕事を選んだ理由、こ
れからどんな福祉人になり
たいか

小林 修 (こばやし おさむ)



- ① 三方原スクエア児童部
- ② 保育士
- ③ 四国学院大学
- ④ バレーボール・スポーツ観戦
- ⑤ まじめなことです。長所にもなり短所にもなると思います。
- ⑥ 母が福祉関係者ということもあり、幼少期からハンディキャップのある方と関わる機会が多く、自然にこの仕事を選んでいました。これからは、私に関わっていただく全ての方から勉強させていただき、日々保育士として、また人間として成長し続けていく福祉人になりたいと思っています。一生懸命頑張りますのでよろしく願います。

松下 絵里 (まつした えり)

- ① つばさ静岡 つくしA
- ② 支援員
- ③ 静岡英和学院大学
- ④ 趣味…ショッピング・ダイエット
特技…剣道
- ⑤ 長所…あきらめないこと
短所…マイペースなところ



⑤ 私は大学で福祉を学び障害をもった方々と接するボランティアをしてきました。その経験を通し、障害を持つ方々の生きにくさや彼らの世界観に興味を持ちました。そのため、障害をもった方々と関われる仕事がしたい、役に立てる仕事がしたいと思いついてこの職種を希望しました。これからは利用者の方の気持ちに寄り添い、利用者の方にたくさん笑顔を提供できるように支援者になりたいと思っています。どうぞ、よろしく願います。

花本 正人 (はなもと まさと)

- ① 支援センターわかぎ
- ② 生活支援員
- ③ 県立浜松城北工業高等学校



- ④ ゴルフ・カラオケ・数独パズル・何事にも一生懸命取り組む姿勢
- ⑤ 几帳面(自分で思ってるだけかも知れませんが…)
- ⑥ 今から四年前に親の介護を始めました。最初は戸惑いもありましたが、病気を理解し、優しく接する事によって笑顔で反応してくれる様になりました。去年の9月特養に入れて頂いた後、今まで考えた事がなかった介護の仕事が自分に向いているのではないかと考え始め、友人に相談したのがきっかけになりました。

伊藤 真帆 (いとう まほ)

- ① オリーブの樹
- ② 支援員
- ③ 芥田学園高校



- ④ 私の趣味は音楽鑑賞です。最近車の免許を取ったので(運転はまだまだ下手ですが…)、音楽を聴きながらドライブをするのが好きです。
- ⑤ 長所は、気が長く明るくて優しくとよく言われます。短所は、マイペース過ぎたり、面倒くさがり屋な所です。社会人になり、気を引き締めるためにも、自分の短所を意識して直していきたい、長所を伸ばしていきたいです。
- ⑥ 私がこの仕事を選んだ理由は、高校で福祉課へ入学し、授業で色々な『福祉』や『障がい』などについて学び、実習や勉強を重ねていく中で、福

祉の仕事は人との関わりを深く感じられ、とてもやりがいのある仕事だと感じたからです。自分が少しでも障がいをもつ方々への支援に役立ち、どんな障がいを持っていても、暮らしやすい世の中を作れる一人になれたらいいなと思っています。そして多くの利用者さんと信頼関係を築き、多くの利用者さんに好かれ一日一日の関わりを大切にできる福祉人になりたいです。

平成24年度辞令交付式

4月2日、つばさ静岡にて平成24年度採用小羊学園辞令交付式が行われ、17名の新採用職員および23年度中途採用職員3名が出席しました。児童福祉法・障害者自立支援法の改正に伴う人員配置基準を満たさなければいけないこともあって、今年度も多くの採用がありました。

式典はキリスト教礼拝で執り行われ、「ひかりひかり」「ちいさなかご」の讃美歌を斉唱し、祈りをささげました。稲松理事長の講話では小羊学園の名称由来でもある「小さな羊のたとえ」の聖書が読まれ、御言葉が読み解かれました。

「迷い出た一匹の羊をみついたら、迷わずにいた九十九匹よりも、その一匹のことを喜ぶだろう。これらの小さなものが一人でも減ぶることは天の父の御心ではない」この聖句に込められ

た小羊学園の理念を語られ、新職員は真剣な眼差しで聴講していました。

式典では、新職員一人ひとりの名前が読み上げられ、所属・職種の辞令を受け取りました。また、今年度よりオリーブの樹施設長になった鈴木龍一氏にも、施設長任命の辞令が渡されました。

式典後、浜松地区採用職員は、つばさ静岡の施設見学を行い、静岡地区採用職員は業務におけるオリエンテーションが進められました。昼食は一同に会し、和やかな雰囲気の中で行われ、午後の時間は各エリアに分かれてオリエンテーションや事業所見学などが行われました。



紙面では紹介できなかった新職員の配属先・職種・氏名を紹介します。

三方原スクエア児童部

- 看護師 村上 真由美

三方原スクエア成人部

- 生活支援員 圖師 三紗
- 生活支援員 中村 歌琳
- 生活支援員 戸塚 久恵
- 生活支援員 内山 由貴
- 生活支援員 小梢 樹里
- 業務員 藤井 文華

支援センターわかぎ

- 生活支援員 青島 渚
- 生活支援員 鈴木 香緒里

つばさ静岡

- 生活支援員 宮田 則子
- 生活支援員 杉山 桃子
- 生活支援員 片山 有香
- 生活支援員 伊藤 麻里子
- 看護師 三浦 由樹
- 理学療法士 高山 香都絵
- 事務員 塩澤 佳子

それぞれの事業所において、若さを武器にエネルギーあふれる活躍を期待しています！



ぱびるす入園・進級式

ぱびるすが開所をして4年目になりました。10名定員ではじめた事業所も昨年度、県の助成を受けて増築し、この4月からは、20名の定員でスタートしました。

3月に4名の卒園児を送り出したばかりですが、4月には9名の子どもたちが新たに加わり22名のぱびるすになりました。4月4日に入園進級式をおこないましたが、少し不安気な入園児一人一人に、少したくましくなった在園児からお便り帳のプレゼントとお祝いの言葉をもらいました。これからはぱびるすの仲間としてご家族も子どもたちも一緒に成長していけたらと思います。

**基盤整備事業の補助受け増築
支援センターわかぎ・ぱびるす**

自立支援基盤整備事業の補助を受け、支援センターわかぎ・ぱびるすの2事業所が増築工事を行い、この度竣工いたしました。支援センターわかぎは、2つの活動室・キッチン・浴室を配置した別棟を整備し、活動等に有効活用できるようにしました。ぱびるすは、2階に活動スペースを増設し、就学前の子どもたちと就学中の子どもたちが別々の空間で過ごすことができるようになりました。

両事業にご尽力くださった(株)中川猛一級建築士事務所ならびに常盤工業(株)の皆さまに厚く御礼申し上げます。

幹部職員人事のお知らせ

平成24年4月1日付けで下記の通り幹部職員の異動があったことをご報告いたします。

オリーブの樹
施設長 鈴木 龍一

東北の被災地をお覚え下さい

3.11 東日本大震災から1年余が経過しましたが、東北地方では未だ復興の道筋が見えていない地域もたくさんあります。

小羊学園は福島県南相馬市にあるNPO法人「さぼーとセンターぴあ」と繋がりが持て、就労継続事業所「ビーンズ」に1年間の人的支援を行わせていただく運びとなりました。

地震・津波・放射能とそれぞれの地域で抱える問題は違いますが、復興は何も終わっていません。私たちがいつまでも忘れない心を持ち続けることが、被災地の皆様の支えになることをお覚え下さい。

右：支援センターわかぎ別棟
下：ぱびるす2階増築



編集後記

新年度がスタートして1週間ほど経った。この時期は別れと出会いが訪れ、管理者としては現場が上手に機能するかどうか不安な時期である。利用者の立場からしても、また然り。

利用者は長年、この繰り返しの中で生きてきた。親の代役として父的な存在、母的な存在が急に居なくなり、明日から面識のない若い新人が入ってくる。そんな中で職員や周りの人たちとの関係性を修正してきた。その関係性が平安であることを願いつつ、職員育成の大切さを思い改める。

春の嵐で桜花が散るも、若葉が茂り始めています。新緑の時期、どうぞ皆様お元気で過ごして下さい。

(F)

小羊学園を支える会

2011年度寄付金報告

3月受付分 11,233,580円 (23件)
累 計 18,831,920円 (440件)

小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座 00800-8-107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園
ゆうちょ銀行 089店 当座預金0107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。
小羊学園を支える会事務局 (鈴木)
三方原スクエア内 ☎ 053-414-1833